

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

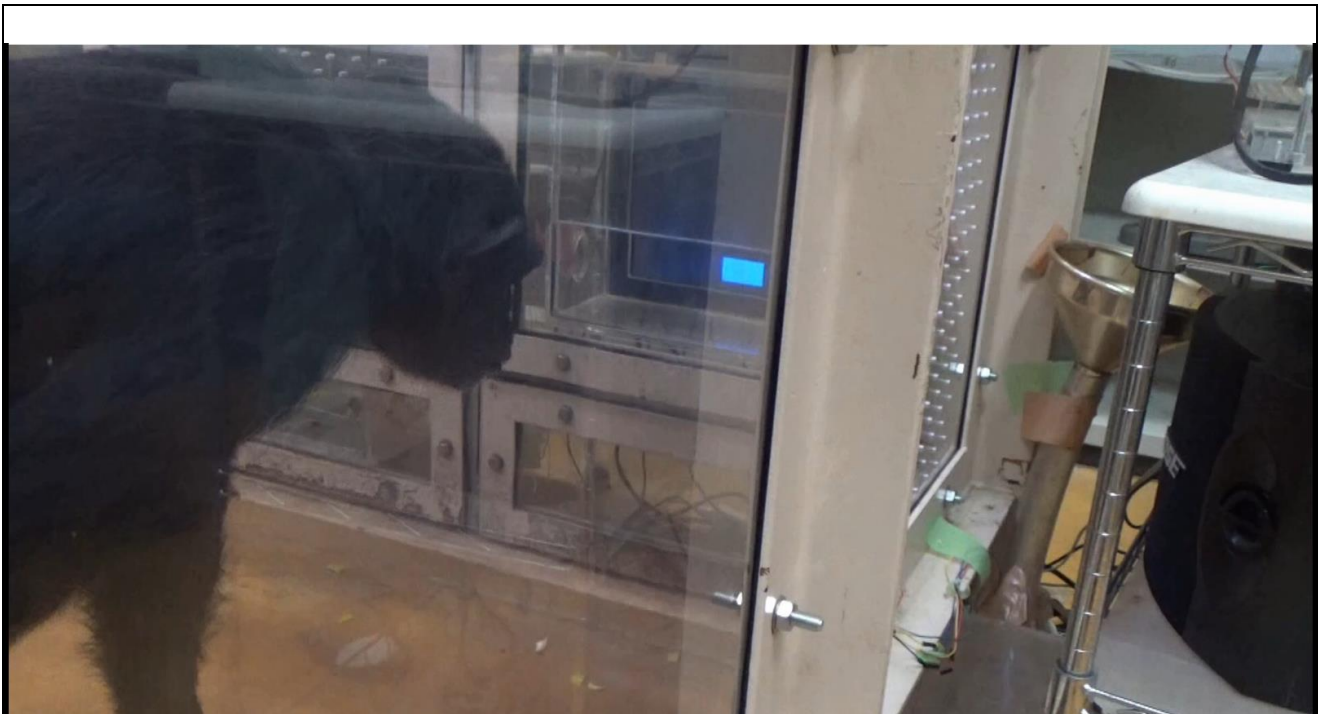
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 9 月 28 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	瀧山 拓哉

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
比較認知科学実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 4 月 1 日 ~
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
霊長類研究所 思考言語分野
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>2017 年 4 月から修士課程の学生として、霊長類研究所で、地下にある実験室で、チンパンジーを対象とした実験を行っている。本レポートでは、実験の様子を報告する。</p> <p>実験では報酬として、チンパンジーにリンゴ片や果物を与える。実験を行う際はまずそれらを準備するところから始まる。一見簡単に見える作業でも、なるべく同じ大きさにそろえる。十分量以上切らないようにする。などを考えると、失敗してしまうことも多い。たとえ万全の準備ができたとしても、実験を行うことができるかはチンパンジー次第だ。実験室に来るかどうかはチンパンジーにゆだねられているので、群れで喧嘩が起こったときなどチンパンジーが来てくれないことも少なくない。たとえ実験室にチンパンジーが来てくれたとしても、実験器具に触れてくれないときもある。動物研究を行う難しさを日々実感している。</p> <p>実験自体は基本的には毎日同じような操作の繰り返しである。パソコンを起動し、同じプログラムを用いて、ひたすらにデータを集めていく。ただ、同じ実験を行っている間も、常に先を見据えて考え続ける必要がある。どのようなデータが得られることが予想されるのか、そのあと何を、どういった方法で検証するのか、実験中のチンパンジーの行動に何かヒントはないか、気を抜くことはできない。</p> <p>霊長類研究所で研究は多くの方々のサポートがなくては成り立たない。貴重なアドバイスを下さる指導教員の友永先生、服部先生はもちろん、技能補佐員の平栗さんや人類進化モデル研究センターの方々にもチンパンジーの動かし方、給餌、接し方について非常に多くのアドバイスをいただいている。いくつかの技術は将来的には自分でできるようになることなので、努力して少しでも早く自分ができることを増やしていきたいが、サポートを必要とする部分もたくさんある。様々なことに目を配ることを忘れず、自分に何ができるのか、どのような貢献ができるのか、日々考えながらこれからも研究活動を行っていきたい。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



実験の様子



屋外放飼場にいるクロエ

**6. その他** (特記事項など)

友永先生、服部先生、足立先生、林先生をはじめ思考言語分野の皆様、人類進化モデル研究センターの皆様にはいつも貴重な指導、助言をいただいております。ありがとうございます。また、研究活動、学会参加では、PWS プログラムを受けています。この場をお借りして御礼申し上げます。